

第63回卒業式、37名の巣立ち



三珠中学校
学校便り

礎

ishizue

令和6年3月11日
文：校長 丹沢伸也

3月11日、第63回卒業式が行われ、37名が本校を巣立ちました。授与した証書番号は三三八八号から三四二四号、歴史ある三珠中学校の卒業生に名前を連ねました。3年間三珠中学校で学んだこと、思い出を糧に、新たなステージで活躍することを心より願っています。卒業、おめでとう。



はなむけの言葉

義務教育を終え、新たな世界に歩き出す皆さんに一つお願いをします。

それは、人の心の痛みを感じ共感ができる人、違いを認め敬う、リスペクトできる人になってほしい、ということです。宮澤賢治が残した言葉に「世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉があります。これは、究極の理想の姿と考えます。科学や技術が発達し生活は便利で豊かになりました。豊かになれば、世界全体も平和に次第に近づくとみんなが願い信じてきました。しかし、ウクライナや中東での紛争など、未だに争いは絶えません。自分たちを優先し、違うものを排除する内向きの風潮は、宮澤賢治の理想とはほど遠い現状です。

一方、一月に発生した能登半島地震で、今もなお多くの方が不便な生活を強いられています。また、今日三月十一日は、十三年前、東日本大震災が発生した日です。自然災害で苦しむ人を目にするたびに、襲われるのは無力感しかありませんが、「つらさを共有することが支援につながる」、そんな言葉を、皆さんには紹介しました。

小さな存在の自分に何ができるか。身近なところから始めてください。これから先、様々な人と関わっていきますが、考え方、価値観、環境は皆異なります。人の心の痛みを感じ、つらさを共感し、リスペクトする気持ちをもつこと。自分だけでなく、相手や全体の幸せを考えることができれば、平和でよりよい社会を創る担い手となることができると思います。

いよいよ新しい一步を踏み出すときが来ました。最初の一步を出すのは不安かもしれませんが、しかし、この三珠中学校で三年間学んだこと、思い出、経験、一緒に過ごした先生、後輩、そして仲間達、そのすべてが糧となり、みんなの背中を押してくれることでしょう。そして、踏み出した先には、きっとすばらしい景色が待っているはずです。

三十七名の卒業生が新しいステージで、大きく羽ばたき活躍することを願い、「はなむけの言葉」とします。

令和6年3月11日

市川三郷町立三珠中学校
校長 丹沢伸也



9月 希珠祭



4月 学年開き



4月 修学旅行



部活動